

## 海外留学レポート -UTS:シドニー工科大学-

旭川校 英語教育専攻 4年 田口美樹

### 1. はじめに

私はオーストラリアのシドニー工科大学に交換留学生として2月から11月までの約10か月間在籍しました。オーストラリアを選んだ理由として、日本と季節が真逆の場所で違った生活をしてみたい、また、いろいろな国から来た人が集まる場所で異文化交流をしたいということがありました。あこがれていた海外での生活に期待する一方で、それまで英語圏を訪れたことは一度もなかったことから、全く新しい環境での挑戦に対する大きな不安もありながら、真夏の2月への扉を開けました。

### 2. 授業について

秋学期は語学コース（ALAC: Australian Language and Culture Studies）、春学期は正規コース（Undergraduate）で International Studies を専攻しました。語学コースではプレゼンテーションや最終課題のレポートを通じて正規コースで受講するために必要とされるスキルを養うことができました。しかし、正規コースでは日本との授業形式の違いもあり、ついていくのが大変なこともありました。というのは、日本では講義や座学が中心であるのに対し、UTS では講義とチュートリアルが明確に分かれており、特にチュートリアルはディスカッションを中心に授業が進行していくものでした。授業によっては内容が難しいものもあり、クラスメイトに助けをもらうことも多かったのですが、授業者からの問いかけやディスカッションで何も発言できないと授業に出席していないことと同等であると自分に言い聞かせていました（拙い英語でも発言すれば周りみんな耳を傾けてくれます！）。周りよりも劣っていると感じたら、その分周りよりもたくさん勉強して補う必要があると強く感じました。



Building 5/ 図書館

UTS には HELPS という機関があり、留学生が大変多いことから、英語を母語としない留学生に対する手厚いサポートが提供されています。提出課題の文法チェックから、楽しみながらトレーニングできる英会話クラス、イベントまであり、個人的には比較的時間があつた秋学期に多く活用していました。冬休みには HELPS 提供の集中講義もあり、私はその中からプレゼンテーションのコースを受講し、効果的なプレゼンテーションの仕方を学びました。

UTS には HELPS という機関があり、留学生が大変多いことから、英語を母語としない留学生に対する手厚いサポートが提供されています。提出課題の文法チェックから、楽しみながらトレーニングできる英会話クラス、イベントまであり、個人的には比較的時間があつた秋学期に多く活用していました。冬休みには HELPS 提供の集中講義もあり、私はその中からプレゼンテーションのコースを受講し、効果的なプレゼンテーションの仕方を学びました。

### 3. 言語の壁を乗り越えて

「英語は意思疎通のための道具である。」このフレーズはたびたび耳にしますし、英語教師を志す上で未来の生徒に教えていくべきことでもあると思いますが、恥ずかしいことに私は留学を経験して初めてこの本当の意味を痛感させられました。オーストラリアに降り立って間もない頃は、誰かに話しかけるだけで「やばい、英語話さなきゃ」と身構えてしまって、せっかく会ったり話しかけてくれたりした人たちとも友達になる余裕がないくらい毎回緊張してしまい、会話の内容よりも「英語を話す」ことしか考えられていませんでした。

そんな自分を変える一つのきっかけとなったのが、勇気を出して単身で飛び込んだシドニーのミートアップイベントでした。このイベントで、その後もたくさん遊んだり出かけたりする友達をつくることができとても嬉しかったし、少し自信にもなりました。UTS は年間を通して行事が多いことや、学生寮に住んでいたの寮生向けのイベントがあったことなど、新しい友達に出会う機会はたくさんあり、いつのまにか「英語を話す」のか、「英語で話す」のかさえも意識せずとも人と話せるようになっていました。



ミートアップで出会った友達:)

#### 4. 今しかできない経験を

私は留学中にアルバイトをしなかったので、時間があるときはオーストラリアでしかできないことをたくさんしたいと、いろいろなことをしているうちに、いくつか新しい趣味ができたので、ここで紹介します。一つ目は、シドニーのビーチ巡りです。個人的なことですが、私は出身地も現在の日本の住まいも内陸部で海からとても遠かったので、海に近い生活に少し憧れもありました。今でも、初めてオーストラリアのビーチに行った時の景色に対する感動や、波の音などもはっきりと覚えています。夏は晴れたらとにかくビーチに行くのが当たり前になり、海に入って楽しんだ後に砂浜で昼寝をするというルーティンさえできました。ビーチによって海の色や波の強さ、砂の質や色なども全然違って、飽くことなく楽しめました。

二つ目は写真です。ビーチもそうですが、オーストラリアの自然は雄大で本当に心を奪われます。シドニーはオーストラリア最大の都市でありながら自然も豊かでしたし、市街地を離れると緑でいっぱい全く違った景色が広がっていて、カメラを持たずしては出かけられませんでした。また、空とのショットも見逃せません。私はある時から日の出/日没観測にすっかりはまって、狂ったように気象情報をチェックし、夏は日の出の時刻が早いので、朝 4 時に起きて太陽を追いかけていました。その日の雲量やその他の気象条件で空は全然違う色や表情を見せてくれて、それを眺めることで日々の疲れを忘れていました。グレートオーシャンロードの最終目的地で見ることでできた日没は言葉にならないほど美しかったです。

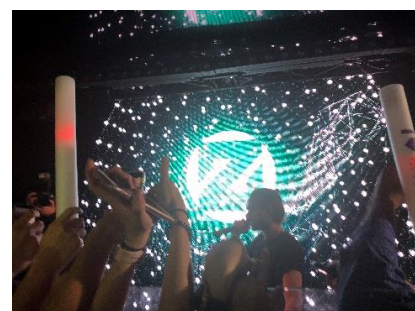
ほかにも、オペラハウスやハーバーブリッジが一望できるシドニーハーバーをまわるクルーズに参加したり、パーティーやクラブ、海外アーティストや DJ のライブコンサートに行ったりして、海外ならではの経験もたくさんできました。野生のコアラやカンガルーにも会えましたし、カンガルーやワニの肉も食べてきました…！



パームビーチ



12 人の使徒/  
グレートオーシャンロード



Zedd のライブパフォーマンス

## 5. おわりに

私の留学生生活を漢字一文字で表すと、「新」が最もあてはまると思います。新しいことや様々な初めての経験、そしてそれまで会ったことのなかった人たちとの会話や交流を通して、今までの自分の中での常識が全て壊れていくような気がして、固定観念や勘違いをリセットすることが出来たように思えるからです。これは留学を通して得ることが出来た大きな財産だと感じています。先にも述べたように、日本と全く違う環境で生活することや、いろいろな国から来た人と交流したいという目的がありましたが、それを存分に味わい、かなえることができた留学でした。今後も勇気を出してどんどん新しい環境に飛び込んで、新しいことに挑戦していきたいと思います！ No guts no glory!!

